

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	事業所内での研修や勉強会は定期的に行っているが、新入職員が多く、未経験者もいるため、習熟度の差が大きい。また、業務の中での指導にもばらつきがあり、個人の能力や長所が活かしきれしていない。	業務の方向性を統一し、一人ひとりが不安なく業務に取り組むことができるようにする。 役割や委員会活動を通じて適性を活かせるようにし、積極的に知識や経験を習得できる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務や日課の見直しを行い、誰が見てもわかりやすいよう、細分化して表記する。 ・既存の委員会に加え、虐待防止、感染症対策、防災対策他、委員会を設置し、委員会が中心になって研修を行う。 ・自分が得意なことや好きなこと(行事・レクリハ、環境・美化、園芸等)を担当として任せ、活動内容を企画する。 ・月1回の定期研修の他にも、業務の中での問題点や課題を抽出し、実践に即した勉強会をその都度行う。 	12 か月
2	11	管理者が職員の意見や提案をヒアリングし、それをもとに協議することで改善に努めているが、全職員への働きかけが十分ではなく、全員で意見交換する機会が持ちにくい。	個々の意見や提案を管理者が聞きとるだけでなく、全職員が同じ場で話し合い、問題提起をし、業務の改善、サービスの質の向上等運営に反映させたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員参加の会議を開催する。(1回/2か月) ・ユニット会議を開催する。(1回/2か月) ・リーダー会議を開催する。(随時) 	12 か月
3	35	年2回の避難訓練に合わせて、地震や水害を想定して避難ルートの確認や実際に利用者を誘導する訓練を実施しているが、避難開始の目安、ADLに合わせた具体的な避難方法、避難後の生活介助について、もっと細かに想定して、全職員が対応できるようにする必要がある。	いつ、どの職員が災害発生時に遭遇しても、落ち着いた的確に対応できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策委員会を中心に職員間で話し合い、マニュアルを見直し、具体化する。 ・全職員が近隣を実際に歩き、ルートや危険個所を自分の目で確認し、把握できるようにする。 ・歩けない利用者を、エレベーターを使わずに上階に避難する方法を演習をして体得する。 ・非常用階段スロープを作る。 	6 か月

4	48 ・ 49	<p>新型コロナの流行のため、地域やホームのイベントが中止になり、今までできていた外出もできなくなった。 コロナ流行前と比べると活動量や楽しみ事が減っており、ADLの低下や認知症の進行を感じている。</p>	<p>新しい生活様式を取り入れながらも徐々に活動を増やし、一人ひとりの個性に合わせた運動や楽しみ事を取り入れることで、ADL低下や認知症進行を防ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意向や趣味、特技などを把握し、レクや園芸他、各担当が中心になって個別の日課を作成する。 ・感染予防をしつつ、ホーム行事や外出支援を増やす。 ・職員が明るい気持ちで前向きに仕事をするすることで、利用者の意欲を引き出していく。 	24 か月
5					か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。